株式市場新聞
www.marketpress.jp
2021
8/2
月曜日
発行元　株式会社 株式市場新聞社
〒530-0005
大阪市北区中之島４－２－２８甲南アセット中之島ビル
TEL 06-6105-1904

日経平均株価
２万７２８３円５９銭
▼４９８円８３銭（前日比）
ＴＯＰＩＸ
１９０１．０８
▼２６．３５（前日比）

Windows11効果に期待品

半導体や電子部品は活況つづく

コロナ禍における巣ごもり需要の拡大などにより、民生や車載向けなど幅広い用途で半導体需要が拡大しているが、民生向けに関して注目されるのが、マイクロソフトの新ＯＳ「ウインドウズ１１」リリースによるＰＣの買い替え需要。９月はアップル社もｉＰｈｏｎｅやｉＰａｄの最新機種を投入し、スマホやタブレットで攻勢をかけるとみられることから、これらの需要で半導体や電子部品の活況は続くことになりそうだ。

高性能化背景に需要高まる

マイクロソフトが６月にウインドウズ１１を正式発表、順調に進めば年内にも年内にもリリースされる見通し。現行の１０と同様に無料で新ＯＳへ移行が可能だが、ＣＰＵやＴＰＭ（暗号化やデジタル証明書に関係するチップ）を含めてハードウェア要件がかなり高いことから、新ＯＳリリースとともにＰＣの買い替え需要は想定以上に発生する可能性が高い。個人や企業を含めてウインドウズ搭載ＰＣのシェアは圧倒的だが、コロナ禍で在宅ワークの比率が急増するなかで、古いＯＳを使用し続けることはセキュリティー面でリスクが高くなっている。このような中で、ウインドウズ１１リリース時に最新ＰＣへ買い替えを決断する動きが高まりそうだ。

半導体の旺盛な需要は続く

一方、在宅や外出先での仕事が増えるなかで、需要が高まっているのが高性能なスマホやタブレット端末への需要。アップル社は例年９月以降に新型ｉＰｈｏｎｅやｉＰａｄを発表しており、今年はこれまで以上に高性能化を図ると言われている。

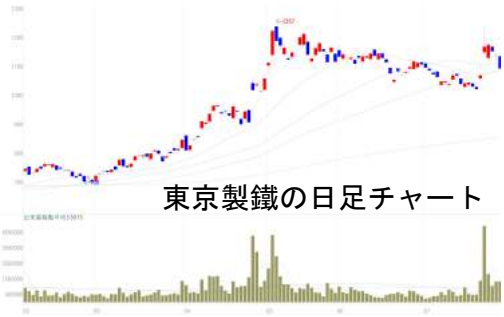
これらを背景に半導体や電子部品の需要はこれまで以上に高まりそうだ。第１四半期で６６・４％超の大幅営業増益を発表した半導体、電子部品向け切断・研削・研磨装置で世界トップの**ディスコ**（６１４６）や半導体マスク欠陥検査装置の**レーザーテック**（６９２０）の他、**村田製作所**（６９８１）などを見直したい。

日経平均日足チャート

前週の動意銘柄

東京製鐵は続急伸

鋼材需要増で大幅上方修正



連休明け26日、**東京製鐵**（5423）が続急伸。22年3月期の業績予想について、連結売上高で2210億円から2440億円（前期比72・5％増）、営業利益で120億円から220億円（同5・5倍）へ大幅に上方修正した。海外では鋼材需給は引き締まり、国内では建設工事や民間設備投資の持ち直しなどを受け、鋼材需要は堅調に推移すると期待。

日電産当面の出尽し

日本電産（6594）が朝高のあと反落。22年3月期の第1四半期決算は、連結売上高で4474億7000万円（前年同期比32・8％増）、営業利益で445億5500万円（同60・3％増）と大幅増収増益で着地したが、買い一巡後は当面の出尽し感が広がった。高水準の信用買い残の重し。1Qは家電向けコンプレッサや欧米での搬送用ロボット向けモータやギアなどが伸びている。

日精線は大幅増額

27日、**日本精線**（5659）が3連騰で新値。22年3月期の業績予想について、連結売上高で390億円から420億円（前期比23・1％増）、営業利益で35億円から42億円（同76.5％増）へ大幅に上方修正、年間配当で160円から200円（前期110円）へ引き上げた。自動車関連や建材用途の販売数量をはじめ幅広いアイテムの販売が好調。極細線や半導体関連業界向け超精密ガスフィルターなど高機能・独自製品も堅調に推移。

インソース成長鈍化

インソース（6200）が急落。21年9月期第3四半期累計の連結決算はオンライン研修の拡大で、営業利益が17億3100万円（前年同期比4・0倍）と利益が急拡大した。ただ、直近3カ月の4～6月は4億7400万円と1～3月の6億1100万円を大きく下回り、成長鈍化が警戒された。

仮想通貨関連軒並み高

リミックスポイント（3825）や**マックスグループ**（8698）など仮想通貨関連株が軒並み高。ビットコイン価格が一時4万ドルに迫るなど急上昇した。仮想通貨についての米テスラCEOの発言が刺激になったほか、アマゾンのビットコイン決済導入も伝わった。

公開価格77％上回る

サーキュレーションの初値

サーキュレーション（2991）が東証マザーズ市場に新規上場、公開価格1810円を77・1％上回る3205円で初値をつけた。プロの経験・知見によるプロシェアリングコンサルティング。

公開価格の2・6倍

ブレインズテクノロジーの初値

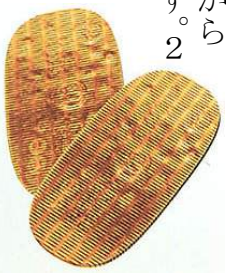
28日、**ブレインズテクノロジー**（4075）が東証マザーズ市場に新規上場、公開価格1780円の2・6倍となる4165円で初値が生まれた。データ分析製品の開発・提供などエンタープライズAIソフトウェア事業を行う。

正直じいさんの株で大判小判

好業績株の出直りを狙う

前週の東京市場は日経平均2万8000円が壁になり、週末にかけ下値を探りました。新型コロナ感染拡大への警戒感が強まるなか、中国当局による教育関連企業への規制強化を嫌気した中国株の下落も重しになり、週末30日は500円近い大幅な下げで直近安値を割り込んでいます。高値期日を迎える銘柄が多いことや月末安が続いていることも意識されました。

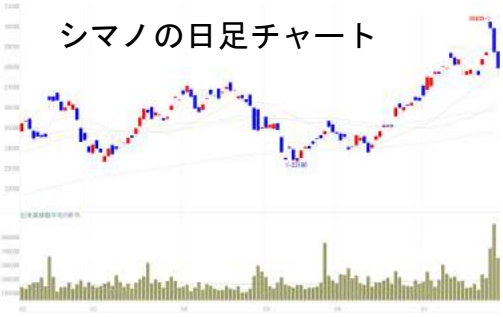
決算への反応は主要企業が内容が良くても売られる悩ましい状況が続きました。感染拡大による経済活動への影響を警戒した長期スタンスの投資家が一部利益確定売りを出しているのでしょう。好決算で売られる銘柄は日足、週足は調整していても月足は高い位置にあります。ただ、好業績銘柄には益回りや割安感から下値には買いが入ります。2Q以降上振れが期待できる銘柄をチェックして、出直るタイミングを狙う考えです。**花咲翁**



シマノ連騰で最高値

21年12月期は大幅上方修正

シマノ（７３０９）が４連騰、最高値を更新した。２１年１２月期の業績予想について、連結営業利益で１０５０億円から１２４５億円（前期比５０・５％増）へ大幅に上方修正した。新型コロナ感染拡大下で高まった世界的な自転車・釣りへの関心は衰えを見せず、主要市場の欧米市場、新興市場での販売が好調に推移している。



マクアケ減額でＳ安

マクアケ（４４７９）がストップ安。２１年９月期第３四半期累計の単独決算は、営業利益２億１００万円（前年同期比６２・１％減）で着地し、通期予想を６億２０００万円から３億１１００万円（前期比３９・０％減）へ大幅に下方修正した。応援購入サービス「Ｍａｋｕａｋｅ」は高成長が続いているが、３Ｑの売上高が計画を下回り、高水準の先行投資を継続することが収益を圧迫する。

サイバーエージェント出尽し感

２９日、サイバーエージェント（４７５１）が急続落。２１年９月期第３四半期累計の連結決算は、営業利益７７５億１３００万円（前年同期比２・７倍）と利益が急拡大、通期計画を５７５億円～６２５億円から１０００億円（前期比３・０倍）に大幅に上方修正した。大幅な収益上振れに伴い、期末一括配当を１０円から１１円（前期８円５０銭）へ引き上げた。ただ、スマホゲーム「ウマ娘」大ヒットによる収益上振れは織り込みが進んでいたようで、当面の出尽くし感から売りが膨らんだ。信用買い残の積み上がりも重荷になった。

公開価格55％上回る

リベルタの初値

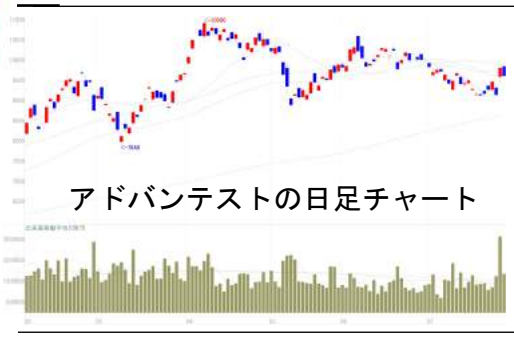
デリバリーコンサルティング（９２４０）が東証マザーズに新規上場、公開価格９５０円を５４・９％上回る１４７２円で初値が生まれた。同社はテクノロジーコンサルティングを行う。

株式市場新聞 marketpressはＭＵＲＡＭＯブランドで商品を開発する株式会社たけむらとクラウドファンディングに挑戦します。

アドバンテスト急反発

上方修正で増配、自社株買い

２９日、**アドバンテスト**（６８５７）が急反発。２２年３月期の業績予想について、連結売上高で３５００億円から３８５０億円（前期比２３・１％増）、営業利益で８５０億円から１０００億円（同４１・４％増）へ上方修正した。第２四半期末配当を５０円（前年同期３８円）へ増配、併せて発行株の５・１％にあたる１０００万株を上限とする自社株取得枠を設定した。高機能化に伴って半導体需要が拡大する。



ファナック大幅反落

週末３０日、**ファナック**（６９５４）が大幅反落。２２年３月期第１四半期の連結決算は、営業利益５２０億７００万円（前年同期比４・７倍）で着地、通期予想を１４８４億円から１９４４億円（前期比７２・８％増）へ大幅に上方修正したが、コンセンサス水準にとどまった。

転ばぬ先のテクニカル

海外投資家の売り越し姿勢

先週の東京株式市場は続落となりました。新型コロナウイルスのデルタ株感染者が足元急増していることや菅政権の支持率低下による政治不安定懸念が原因かと思われますが、海外投資家が現物先物合計で４週連続日本株を売り越しており、２万８０００円台では戻り売りが出てきます。海外投資家の姿勢が変わらないと浮上は期待出来そうにありません。

ただし、日経平均採用銘柄の一株利益（ＥＰＳ）は２９日現在で２０４８．８５円なので株価収益率（ＰＥＲ）は１３．３倍程度。株価純資産倍率（ＰＢＲ）は１．２１倍、配当利回りは１．９０％、株式益利回りは７．３７％です。１０年債利回りが０．０２％の時代なので非常に割安に映ります。需給要因による下げと思われますので、さらに投げ売りが出るならば買い目線で見るべきでしょう。なお、日経平均の高値期日は８月１６日です。

日々勇太朗

企業レター

つり革オーナーを募集

伊賀鉄道

地域の公共交通維持・存続へ

近鉄グループホールディングス（９０４１）傘下の伊賀鉄道は、伊賀線のつり革オーナーを募集する。伊賀鉄道と伊賀市は地域の公共交通を維持・存続するため、２０年度からまくら木オーナー制度を開始したが、幅広く支援を募るため、グループのアド近鉄の協力を得て、新しくつり革オーナー制度も開始することになった。

オリジナルカラー列車とふくにん列車「伊賀の四季」号の車内につり革（長さ約３０㎝、つり輪の直径約１０㎝）を設置、つり革のサヤ部分（通路側と窓側の２面）にオーナーの名前やメッセージを記載したシール（縦１１・５㎝、横２・５㎝）を貼り付ける。設置期間は２１年１１月から２２年１０月までの１年間で、期間終了後も続いて次の１年も支援してもらえる場合は、同じつり革を同じ個所に設置する。

募集期間は８月２日から８月３１日まで。募集数は１５６口で、料金は一口１万５０００円。申込み、問合せ窓口はアド近鉄総合開発本部伊賀鉄道つり革オーナー係。【電話番号】０６-６７７４-５４４４【メールアドレス】iga-tetsu-owner@ad-kintetsu.co.jp

前週の動意銘柄

商船三井大幅増配

商船三井（９１０４）が大幅高で新値。２２年３月期の連結業績予想について、営業利益を２８０億円から３５０億円（前期比５３億３００万円の赤字）へ上方修正、年間配当を１５０円から５５０円（前期１５０円）へ大幅に引き上げた。コンテナ船持ち分法会社の好調や市況の影響を織り込んだ。

公開価格１％上回る

ＡＩメカテック

ＡＩメカテック（６２２７）が東証２部に新規上場、公開価格１９２０円を１・０９％上回る１９４１円で初値をつけた。半導体パッケージ・有機ＥＬパネル・液晶パネル製造装置などの開発・製造・販売、アフターサービスを行う。

～決算情報～

カプコン

売上、利益倍増し過去最高

1Q大型新作とモンストやリピート牽引

カプコン（９６９７）の２２年３月期の第１四半期（４～６月）決算は、連結売上高で４８４億２３００万円（前年同期比２倍）、営業利益で２３６億４００万円（同２．２倍）、純利益で１７３億４０００万円（同２．２倍）と過去最高になった。**野村 謙吉取締役専務執行役員　最高財務責任者（ＣＦＯ）**は「大型新作であるバイオハザード ヴィレッジに加え、前期末発売のニンテンドースイッチ向けのモンスターハンターライズや過去のシリーズ作などを中心としたリピートタイトルの販売などが牽引した」とし、第１四半期決算として、全ての利益項目で過去最高を達成した。

通期は売上高１０００億円（前期比４．９％増）、営業利益で４２０億円（同２１．４％増）、純利益で３００億円（同２０．４％増）と従来予想を据え置いた。

日本精線

22年3月期予想を上方修正

自動車、建材用途など幅広く好調

日本精線（５６５９）は２２年３月期の業績予想の修正を発表、通期連結売上高で３９０億円から４２０億円（前期比２３．１％増）へ、営業利益で３５億円から４２億円（同７６．５％増）へ上方修正、年間配当で１６０円から２００円（前期１１０円）へ引き上げた。

主な需要先である自動車関連や建材用途の販売数量をはじめ幅広いアイテムの製品の販売が好調に推移。想定以上の数量増加によって、粗利増加や操業度損圧縮の効果を見込んでいる。また、太陽光発電パネルや電子部品の製造プロセスで使用されるスクリーン印刷向け極細線や半導体関連業界向け超精密ガスフィルター（ＮＡＳｃｌｅａｎ）など、高機能・独自製品の販売も当初想定どおり堅調な推移を見込んでいる。

ハリマ化成Ｇ

通期増額で97％営業増益

粘接着剤用樹脂と製紙用薬品が牽引

ハリマ化成グループ（４４１０）の２２年３月期第１四半期の連結決算は、売上高１７４億６０００万円（前年同期比１０．５％増）、営業利益８億１００万円（同５．６倍）と２ケタ増収で利益が急回復。通期予想について、売上高を６８５億円から７６５億円（前期比２１．７％増）、営業利益を２５億円から３１億円（同９６．６％増）へ上方修正した。

新型コロナ感染拡大の影響で落ち込んだ需要が各分野で回復しており、特に欧米の粘接着剤用樹脂と中国製紙用薬品の売上げ増が業績を牽引。印刷インキ用樹脂、合成ゴム用乳化剤、塗料用樹脂や半導体用機能性樹脂の販売も増え、粗利拡大に合理化、コスト削減効果も加わり、第２四半期累計、通期とも前回予想を上回る見込みとなった。

年間配当は３８円を継続する。

住江織物

中計で営業益33億円目指す

環境対応製品を自動車内装材に

住江織物（３５０１）は中長期経営目標ＳＵＭＩＮＯＥ　ＧＲＯＵＰ　ＷＡＹ２０２２～２０２４～２０２７）の発表を行った。

前２１年５月期は２ケタの減収減益を余儀なくされたが、インテリア事業では、抗菌・抗ウイルス加工技術「ＣＬＥＡＮＳＥ」を施した製品や、水平循環型リサイクルタイルカーペット「ＥＣＯＳ」といった、健康に配慮し、環境にやさしい製品の拡販効果が表面化し、２２年５月期は連結売上高で８６４億８０００万円（前期比８．５％増）、営業利益で１１億６０００万円（同１０．６７％増）を計画。**吉川一三代表取締役会長兼社長**は「インテリアで培った環境対応製品を自動車内装材にも展開する」とし、２４年５月期に売上高９３４億９０００万円、営業利益で３３億円を目指す方針だ。

～決算情報～

アズワン

第1四半期は大幅増収増益

研究や生産現場での需要活発化

アズワン（７４７６）の２２年３月期の第１四半期（４～６月）決算は、連結売上高２００億６３００万円（前年同期比１８．３％増）、営業利益２２億９０００万円（同３７．８％増）、純利益１６億２５００万円（同３２．９％増）と大幅な増収増益となった。

研究や生産の現場において、前年同四半期が全国に発出された緊急事態宣言に伴う生産活動や研究活動の停滞期であったことの反動増に加え、官民ともに研究や生産現場での需要が活発化。

また、ＤＸに繋がるｅコマース関連（特に集中購買）での需要が伸張していることやＷＥＢ上の取扱商品の品揃えが５４０万点を超え、新規の売り上げに寄与、感染対策用品への需要が落ちることなく高止まりのまま維持されていることも追い風となった。

三相電機

1Q2割増収4割営業増益

半導体製造装置用ポンプの受注拡大

三相電機（６５１８）の２２年３月期第１四半期累計の連結決算は、売上高３８億１２００万円（前年同期比２２．２％増）、営業利益２億４２００万円（同４０．１％増）、最終利益２億５３００万円（同９７．８％増）と大幅増収増益で着地した。

世界的な半導体不足の影響で半導体製造装置用ポンプの受注が拡大、設備投資回復を受け工作機械業界からのモータ受注も増加傾向にあり、中国向け空調用モータの受注も堅調に推移した。

通期は売上高１３７億円（前期比６．０％増）、営業利益５億６０００万円（同４５．４％増）、最終利益４億７０００（同１６．８％増）と前回予想を据え置いた。ただ、通期計画に対する１Ｑの営業利益の進捗率は４３％、第２四半期計画の２億６０００万円に対しては９３％に達し、収益上振れが期待できる状況。

潮流

日本株“弱さ„の真相は

成長分野へ大胆な予算投入を!

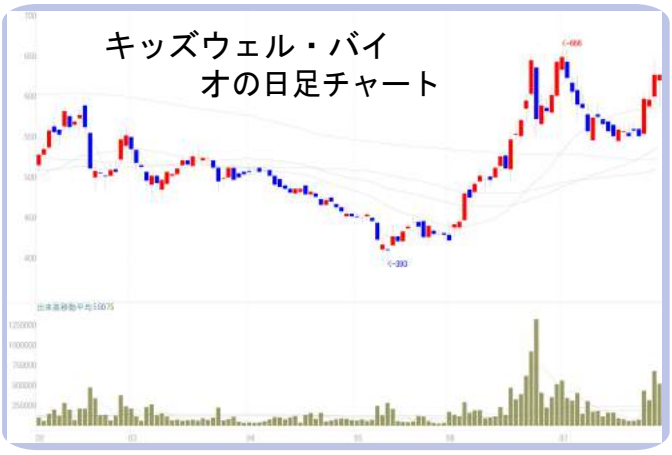
岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール

１９９９年２月日本初の資産運用コンテスト「第一回Ｓ１グランプリ」にて約１万人の参加者の中から優勝。直近では２０１７年１月に始まった夕刊フジ主催の「株・１グランプリ」において優勝。１カ月間における３銘柄の合計パフォーマンスでは１５５％と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

米国の株式市場は過去最高値を更新し続けている。下落すれば買いが入る強気相場が維持されている。それに比べ日本株は４月から下落基調が続いている。上昇したら売り圧力が強まる弱気相場が続いている。いったい原因はどこにあるのか。

新型コロナウイルス変異株の感染者増加や内閣支持率の低下といった国内要因は勿論だが、これらだけでは４月から続いている日本株のアンダーパフォームを説明しきれない。真相は別のところにある。１～３月は欧米株より優勢だった日本株が次第に遅れを取るようになった。デルタ型（インド型）の変異株感染が目立って増えてきたのは、７月に入ってからのことだ。米金融市場で名目金利から予想インフレ率を引いた実質金利が過去最低を更新していることにも日本株売りは関係しているようだ。

足元ではインフレ圧力が強まっている一方、名目の米国債利回りは投資家の旺盛な需要を背景に低下（価格は上昇）基調にある。実質金利が下がると株式などリスク資産にマネーが向かいやすく、米国株の下支えになっている。反面、米国の実質金利の低下が日本株を押し下げる。コロナ感染者増加や米国の実質金利低下と日本株売りをセットにしたヘッジファンドなど外国人投機家によるプログラム売買が日本株の売りを増長していることは確かだ。ただ、機械的なプログラム売買による日本株の乱高下は比較的短期的な動きである。



株式市場のトレンドを決める最も重要な要因は政府による財政支出の金額である。新型コロナウイルス禍を受けて２０２０年春から積み増してきた国の予算７３兆円のうち、約３０兆円を使い残していることが判明したのが６月だ。家計や企業への支払いを確認できたのは約３５兆円と名目国内総生産（ＧＤＰ）の７％程度にとどまっている。

米国は４月末までにＧＤＰの１３％に相当する２．８兆ドル（約３０７兆円）を消化している。米国と比べ日本は財政支出が大幅に少ない。コロナ危機脱却へ財政ニーズが強い時にも関わらず予算枠の４割を使い残す異例の事態が日本株式市場の売り圧力を強めている。日本の株式市場を長期的に上昇させたいなら、国の予算を成長分野に大胆に投入することだ。

潮流銘柄は**キッズウェル・バイオ**（４５８４）、**ネオマーケティング**（４１９６）、**Ｊストリーム**（４３０８）。

米国はGDPの13%を消化

2月の高値期日到来

突っ込み買い戻り売りで対処

敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール

証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、２２５先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における２２５先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

先週の日経平均は前週末比約２６４円安となり、週足では５週連続で陰線となった。月末日安は１１カ月連続で最強のアノマリーとなっている。

新型コロナウイルスの新規感染者の拡大ペースに歯止めがかからず初めての１万人台に乗り、ついに２日から首都圏３県と大阪府が再び緊急事態宣言の対象となったことや中国当局のＩＴ企業などへの規制強化により中国株、香港株が大幅下落したことが嫌気された。

世界の株高をけん引してきた米国株もアマゾンの四半期決算が市場の予想に届かなかったことから売られるなど、ここにきて世界の景気回復のペースが市場予想より遅れる懸念が出てきたことには注意が必要である。

懸念材料は枚挙にいとまがないが日本株においては今週は２月の信用取引の高値期日を迎える。需給的には売り圧力が強まると思われ上値の重い展開は続こう。

チャート的には正念場に差し掛かっている。先週末の引け値（２万７２８３円５９銭）は１月６日以来の安値である。節目の２万７０００円が意識されるとこだが、この水準は５２週線（２万６９７３円処）や週足の雲の上限（２万７０６４円処）が位置しており、下値抵抗ラインとして機能しそうである。

手口ではクレディスイスの売り建て玉が目立っているが、直近の下げで資金的には余裕がでており、さらなる仕掛け売りには注意したいところである。ただ、テクニカル的には指標が売られすぎに近づきつつあるため、セリングクライマックス的な動きの時は突っ込み買いを狙いたい。

また、月足では２月より高値を切り下げており、７月の高値（２万８８５２円３１銭）を抜いてくるまでは本格的な戻りは難しそうである。

今週は月末安の反動で週初は戻りも期待できるが、その後は再び下値を試されそうである。上値メドは２００日線（２万７８２４円処）、２万８０００円。下値メドは週足雲の上限（２万７０６０円処）、２万７０００円、週足ボリンジャーバンド▼３σ（２万６８２０円処）があげられよう。

今週のレンジは２万６８００円から２万８０００円を想定する。「突っ込み買い、戻り売り」で対処したい。

（ハチロク）

NYダウの日足チャート

ナスダックの日足チャート

日経225先物日足チャート

星野三太郎の 株街往来

～ウイルスと共存する道～

デルタ株の蔓延で再び新型コロナウイルスの感染者数が第４波を超えるペースで増加に転じてきた。この欄を執筆している時点で大阪では緊急事態宣言が発動されていないが、事務所の近隣でよく利用する飲食店のオーナーからは、次に営業自粛要請がでれば廃業しかないと、これまで以上に深刻に受け止める自営業者は少なくない。

この欄で改めて書くまでもないが、飲食店に食材や備品を納入する業者を含めて、廃業による影響は実際には想像以上に大きい。備品を納入する業者を営んでいた筆者と親しい知人も廃業を余儀なくされ、ノイローゼ状態で廃人状態になってしまった。政治家は馬鹿の一つ覚えでステイホームを繰り返すだけだが、感染で命の危機に陥る人以上に、経済活動を止めることで命の危機に晒される人は多い。

英国ではワクチン接種で重症化を抑え込めているとして、規制を解除する動きにでている。日本もワクチン接種で重症化を抑え込めれば、ウイルスと共存する道を模索する道を模索しなければならない。単純な自粛だけでこの国難を乗り切ることはできない。

New product

住友ゴム工業　第1弾をドイツで販売開始

シーラントテクノロジー採用タイヤ

住友ゴム工業（５１１０）はタイヤトレッド部の損傷による空気漏れを防ぐシーラントタイヤテクノロジー「ＣＯＲＥＳＥＡＬ（コアシール）」を採用した第１弾商品、ＦＡＬＫＥＮ「ＥＵＲＯＡＬＬ　ＳＥＡＳＯＮ　ＡＳ２１０」をファルケンタイヤヨーロッパを通じてドイツで発売を開始した。

コアシールとは、トレッド部の裏側にシーラント剤を塗布する技術。トレッド部の裏側まで貫通する損傷が発生した場合、塗布されたシーラント剤が穴を塞いで空気漏れを防ぐため、空気圧を維持したまま走行が可能となり、安全性の向上と省資源・省エネルギーへの貢献を両立する。

クボタ　コストダウンと省力化に貢献

農研の技術によるタマネギ栽培作業機

たまねぎ直播機

クボタ（６３２６）は、タマネギを直播栽培で効率的・安定的に生産するために農研機構が開発した技術を活用した作業機を発売する。トラクタに装着してうね立て・施肥・播種の作業を同時かつ効果的に行うことで、これまで天候の影響を受けやすく不安定とされていたタマネギ直播栽培の収量を向上し、省力化やコストダウンに貢献する。

農研機構は、直播栽培の課題とされていた出芽や生育の不安定さを解決すべく、効果的な方法で行うことができる直播用の作業機を開発。この作業機を使ったＪＡ全農と農研機構による共同研究などにより、直播栽培でも移植栽培と同等以上の収量を得ることが可能であることが分かり、農研機構とクボタが改良を重ね製品化した。これにより国産タマネギの競争力向上に貢献していく方針だ。

記者の視点

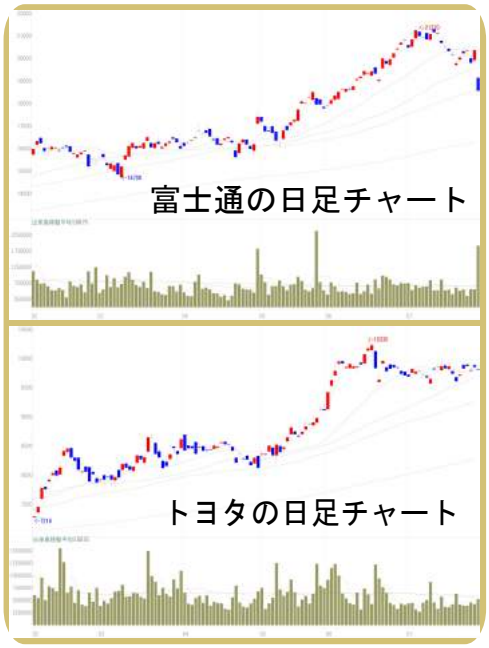
相場見通し

中国企業決算を注視

好決算売りに行き過ぎ感

7月第5週は、個別で見ると第1四半期連結営業利益で前年同期比5割4連休明けは買い戻しの動きで日経平均で2万8000円台まで戻す動きとなったが、その後は弱い動きとなり、30日は2万7300円割れで引けている。

海外では上海や香港ハンセン指数の下落が懸念され、国内では新型コロナの1日あたり感染者数が東京で3000人を突破し、過去最大になっていることが売り材料となり、これに月末要因が下げに拍車をかけた。



新型コロナ感染で悲観的なニュースが相次ぐなかで、取り敢えず利益確定売りを急いだ投資家が多いように思える。

今週は4日の**トヨタ自動車**（7203）や**ホンダ**（7267）など引き続き主要企業の決算発表が相次ぐが、海外では8日のアリババなど中国の主要企業決算が要注目。先週は中国当局の規制強化による株価下落が東京市場にも波及した。決算発表時の企業側の姿勢に関心が集まりそうだ。米国では6日に7月雇用統計が控えている。

SQ接近とともに先物での仕掛け的な売りにも引き続き注意したいが、好決算銘柄への売り浴びせはやり過ぎ感も強い。落ちてくる銘柄は多い。連日、2月16日に日経平均で3万7142円52銭を付けた時の信用期日到来向けた売りが需給悪要因とされているが、急落したとはいえ、月足ベースでは高値券に位置する銘柄は多い。連日、要はないが、そろそろ買い目線で相場を見ておきたい。ナイフをつかむ必

今週のスケジュール

- 30日　米6月6小売売上高(21:30)
  独4-6月期GDP(17:00)
  ユーロ圏4-6月期GDP(18:00)
  米6月個人所得・個人支出(21:30)
- 31日　中国7月製造業PMI、中国7月非製造業PMI、中国7月コンポジットPMI(10:00)
- 2日　米製造業PMI(22:45)
  米ISM製造業景気指数(23:00)
- 3日　マネタリーベース(8:50)
  米耐久財受注(23:00)
- 4日　米ADP雇用者数(21:15)
  米非ISM製造業景気指数(23:00)
- 5日　米貿易収支(21:30)
- 6日　米非農業部門雇用者数、米失業率(21:30)

編集後記

マクアケが2Qに続いて3Q決算でも通期利益予想を大幅に引き下げ、ストップ安に売られた。先行投資制御による成長機会の逸失を避けるため、販管費を見直さず計画通り支出するとしており、利益より規模拡大を優先。ただ、期中2度にわたり計画を見直してまでの多額の投資をどの時点で回収できるのだろう。6割増収と売上げは急拡大しているが、計画を下回ったことが減額の要因。

今後、投資負担で利益率低下は免れない。シェア拡大を焦っているように感じるのは筆者だけだろうか。

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。